

モデルプログラム A-1 外国人児童生徒等教育の課題 －外国人児童生徒教育のための基本的な考え方－

ねらい	子どもの文化間移動による成長・発達上の問題、受け入れ側に求められる異文化間能力、そして、教育の公正性等に関して学び、外国人児童生徒等教育・支援の基本的な考え方をもつことができる。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	A 外国人児童生徒等教育の課題
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 「外国人児童生徒」の多様性を理解する。（15分） ・グローバル化と外国人児童生徒等(A)	1. 「外国人児童生徒等」に関する様々な呼称を知り、その多様性を知る。 1) 「外国籍児童生徒」「日本語指導が必要な児童生徒」「文化間移動をする子ども」「JSLの児童」等、多様な呼称について、何に着目した呼び方なのかを知り、次の点を理解する。 ・国籍・出身地・言語・文化等による単純化した捉え方はできない。 ・社会のグローバル化に鑑み、外国人児童生徒等教育の重要性は高まる。 2) 「日本語指導が必要な児童生徒」について文科省が示す定義を知る。
2. 文化間移動によって生じる子どもの困難やその教育的課題を知る。（20分） ・文化間移動とライフコース(A)	2. 学齢期の文化間移動に伴い、子どもが直面する課題について知る。 1) 外国人児童生徒等が、日本の学校で、あるいは社会生活をおくる上で直面する課題・困難について、留学生や就労のために来日する成人の場合との違いを想像し、次の3つの視点の重要性を理解する。 「成長・発達」「アイデンティティ」「社会参加・自己実現」 2) 文化間移動によって生じやすい子どもたちの成長・発達の「非連続」「分断」がもたらす課題を知る。
3. 日本語教育と国語教育の違いについて話し合う。 ・日本語教育の位置付け(A)	3. 日本語教育と国語教育の違いを知り、日本語教育（日本語指導）の必要性を理解する。 検討すべき点：教育の「対象」「内容」「方法」「ゴール」
4. 外国人児童生徒等教育を学校の教育課題としてどう位置づけるべきか検討する。（25分） ・社会的正義、公正性(A) ・異文化間能力(A)	4. 外国人児童生徒等教育について、学校の教育上の位置づけ、受け入れる側に求められる力・態度について理解する。 1) 学校で外国人児童生徒等をどう位置づけられているかを知り、社会的正義という視点から公教育が果たすべき役割を考える。 2) 児童生徒・教員が多様な文化に触れることの意義を考える。 日本人（日本語・日本文化保持者）とは異なる視点・価値観を知り、文化・価値観を異にする人々と共に暮らすことの意義を考える。
備考	・日本語教育の具体的な方法等を中心にする授業や研修で、前提として扱う場合は、1、2から重要な内容を選択して15分ぐらいで実施してもよい。